

原稿一枚で書く
クトゥルフ神話TRPG
オリジナルシナリオ
「魅せられる」

ユキ・オトコ

シナリオ

探索者には共通の友人がいる。彼は陶芸の職人である父親を見て、同じ道を歩んでいる。

しかし彼の作品は、偉大な父親と比べると凡庸であった。

その彼が久々に連絡してきた。父の個展が開かれるのだが、一人で行くのは気まずいので一緒に来てほしいと。

彼は以前と比べると随分とやつれてしまっていた。また右手を吊っていた。

創作中にやけどを負ってしまったそうだ。

彼は父と面会を試みるも、腕のけがを見た父は厳しい顔つきで彼を追い出してしまった。

彼は意気消沈しながら探索者と別れるが、その一週間後、父の方から探索者へ連絡が来る。

息子と連絡が取れない、何か知らないかと。

探索者が彼のアトリエを訪ねると火事で焼け焦げた空間が広がっていた。

アトリエに残されたメモには短くこう書かれていた。「ここは焼き尽くしたが、私はもう駄目だ。触るな」

【不浄の孢子】に冒された彼はどこへ向かったのか。

追記：話を盛る背景とか

陶芸家の友人：犠牲者。

新しい陶芸の素材となる土を探している最中に【不浄のキノコ】を見つけ、アトリエに持ち帰った。しかし、持っていた右手が感染したことで危険な毒キノコであると判断し、自分で腕とキノコに火をつけた。

陶芸家の父親：協力者。

友人の身を案じているが、自分が友人にできたことは陶芸家としての姿を見せるくらいで何もできないことを悔やんでいる。個展で友人を突き放したのも、陶芸家として命よりも大事な腕を痛めたことを責めたのである。

締め方事例1：友人は、自分の死期を悟り、父に「昔のアトリエで待っている」と連絡する。探索者が父とともにアトリエに向かうとそこは薄暗くジメジメとした空間が広がっていた。

焼き釜のほうへ向かうと、友人が生きたままキノコの姿となってそこに佇んでいるのが分かる。彼を焼き殺すか、そこを完全に閉鎖して誰も入らないようにするのか、はたまた触るのか。探索者の手にゆだねる。

原稿一枚で書くクトゥルフ神話TRPGオリジナルシナリオ「魅せられる」

<http://p.booklog.jp/book/90333>

著者：ユキ・オトコ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cthulhutrpg/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90333>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90333>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ